

地歴公民(日本史) 同志社大学 全学部日程 [文系] (2/5実施) 1/2

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

全問記述式(設問記述・記号選択)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問3題・小問61問(記述28・選択33)で、昨年度と同じ。

出題の特徴や昨年との変更点

時代では、古代と近世が3割程度と最も多く、ついで近代が2割半ばで、原始は小問5問、中世は小問1問と少なかった。

分野では、外交が約4割で最も多く、ついで文化が2割半ば、政治が2割、社会経済が1割強であった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (語群) <史料>	原始・古代 外交	原始・古代の日中関係(史料) (1)卑弥呼の外交(『魏志』倭人伝)、(2)1~2世紀の日中外交(『後漢書』東夷伝)、(3)紀元前後の倭国(『漢書』地理志)、(4)倭の五王の外交(『宋書』倭国伝)、(5)遣隋使(『隋書』倭国伝)、(6)遣唐使、(7)9世紀末~11世紀の日中関係。 本学定番の外交史の問題。史料も基本的なものが中心で、史料問題対策の有無で得点差がつかせよう。 【設問i】「井真成」・【設問j】「粟田真人」・【設問n】「清涼寺」・【設問o】「成尋」などはやや詳細だが、本学では要注意の用語。史料空欄の【設問キ】「菩薩(天子)」・【設問コ】「五台山」はやや難しい。	標準
[II]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (文章4択) <史料>	近世 政治・社会経済	近世の政治・社会経済(史料) (1)幕府の農民統制(『本佐録』)、(2)幕藩領主と貨幣経済(『政談』)、(3)農民の階層分化(『世事見聞録』)。江戸時代の百姓に関する【設問イ】や参勤交代に関する【設問ロ】は、教科書の脚注まで含めた学習が必要。【設問シ】の文章4択は、史料4・6行目の「旅宿」に注目し、荻生徂徠の武士帰農論を想起したい。 【設問ツ】の文章4択は、史料7行目「他所より取り得たる福有にはあるべからず」から判断できる。	標準
[III]	記述 (設問・空欄 補充) 選択 (用語4択・ 空欄4択) <史料>	近代 文化	明治・大正期の文化・社会(史料) 岸田劉生の随筆・日記を素材に、明治・大正期の文学・美術や市民文化などを問う。 【設問e】「新中間層」・【設問f】「束髪」・【設問i】「民芸」は詳細な用語で難しい。日本ではじめて路面電車が開業した都市として「京都」を問う【設問l】もやや詳細だが、本学では京都を意識した問題がしばしば出題されるので注意しておきたい。【設問q】「後藤新平」は本学では要注意の用語。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ①教科書中心の学習で高得点が可能である。全時代・全分野を丁寧に学習すること。
- ②本学ではテーマ史の出題が多く、また同じテーマが繰り返し出題される。時代ごとにテーマ整理を行いつつ、過去の問題を研究して、本学頻出のテーマ・用語についての知識・理解を深めておくこと。
- ③本学では記述式の分量が多く配点も高い。難しい漢字を含む用語も出題されるので、歴史名辞は必ず書いて覚えること。
- ④年代配列や時期・年代を特定する問題が出される。年表を利用して、時代や年代を常に意識しつつ学習を進めること。
- ⑤史料問題が出題されることがあるので、市販の史料集を用いて史料に慣れ親しんでおくこと。その際、史料中のキーワード・キーフレーズに着目しながら内容を理解する姿勢で学習を進めたい。
- ⑥地名や場所を問う問題や図版を利用した問題も出題されるので、教科書掲載の図表や写真にも注意を払うこと。